

YAMAHA
ELECTONE

B-30

B-11

B-4

取扱説明書

このたびはヤマハエレクトーンを
お買い上げいただきまして、誠に
ありがとうございます。本書は、
B-11、B-4、B-30の3機種をま
とめた取扱説明書になっておりま
す。

機種 성격上、取り扱い方法はお
子様にもご理解いただけるよう配
慮いたしましたが、複雑な点は父
兄の方からご説明いただければ幸
いです。ぜひご一読くださいます
ようお願い申し上げます。



★目 次

各部の名称	5 ~ 6
トーンレバー	7 ~ 8
エフェクトレバー・他	9 ~ 10
オートリズムについて	11 ~ 14
仕様と音域表	15 ~ 16
さあ、ひいてみましょう(演奏のしかた)	17 ~ 20
やさしい練習曲からはじめましょう	21 ~ 22
カセットについて	23 ~ 26
お楽しみ学習用テープ	27
音のでるしくみ	28
附属端子	29
椅子の組み立てかた	30
ヘッドホンについて	31
防音について	32
シンセサイザー	33
エレクトーン教室の案内	34
ヤマハステレオの案内	35
いつまでもお楽しみいただくために	36
保証とサービスについて	37
サービスを依頼なさるまえに	38 ~ 39
こんなときは故障ではありません	40 ~ 41





ヒロくんは、とってもわんぱくなおとこのこ。

「ようは なんだか森^{もり}のほうからたのしそうな
こえがきこえてきます。

ヒロくんが さっそく行^いってみると、

森^{もり}のどうぶつたちがあつまって、すてきな
おんがく^{おんがく}音楽にあわせて おどっています。

ふえや、バイオリンや、ドラムや、いろんな
音^{おと}のまじった とてもすてきな音楽^{おんがく}です。

でも、ふしぎですね。ふえもバイオリンも
ドラムも、どこにもみあたらないのです。

「へんだなあ…あ、あの楽器^{がっき}はなんだろう。」

ヒロくんは、トラが楽し^{たの}そうにひいている

すてきな楽器^{がっき}にきがつきました。

もしかしたら、あの楽器^{がっき}にひみつがあって、
すてきな音^{おと}がでるのかもしれないね。

「これはエレクトーンっていうんだよ。レバーを
おすと、いろんな楽器^{がっき}の音^{おと}がでるのさ。

まるでオーケストラみたいだろ。」

ふしぎそうなかおのヒロくんに、森^{もり}のどうぶつ
たちがおしえてくれました。

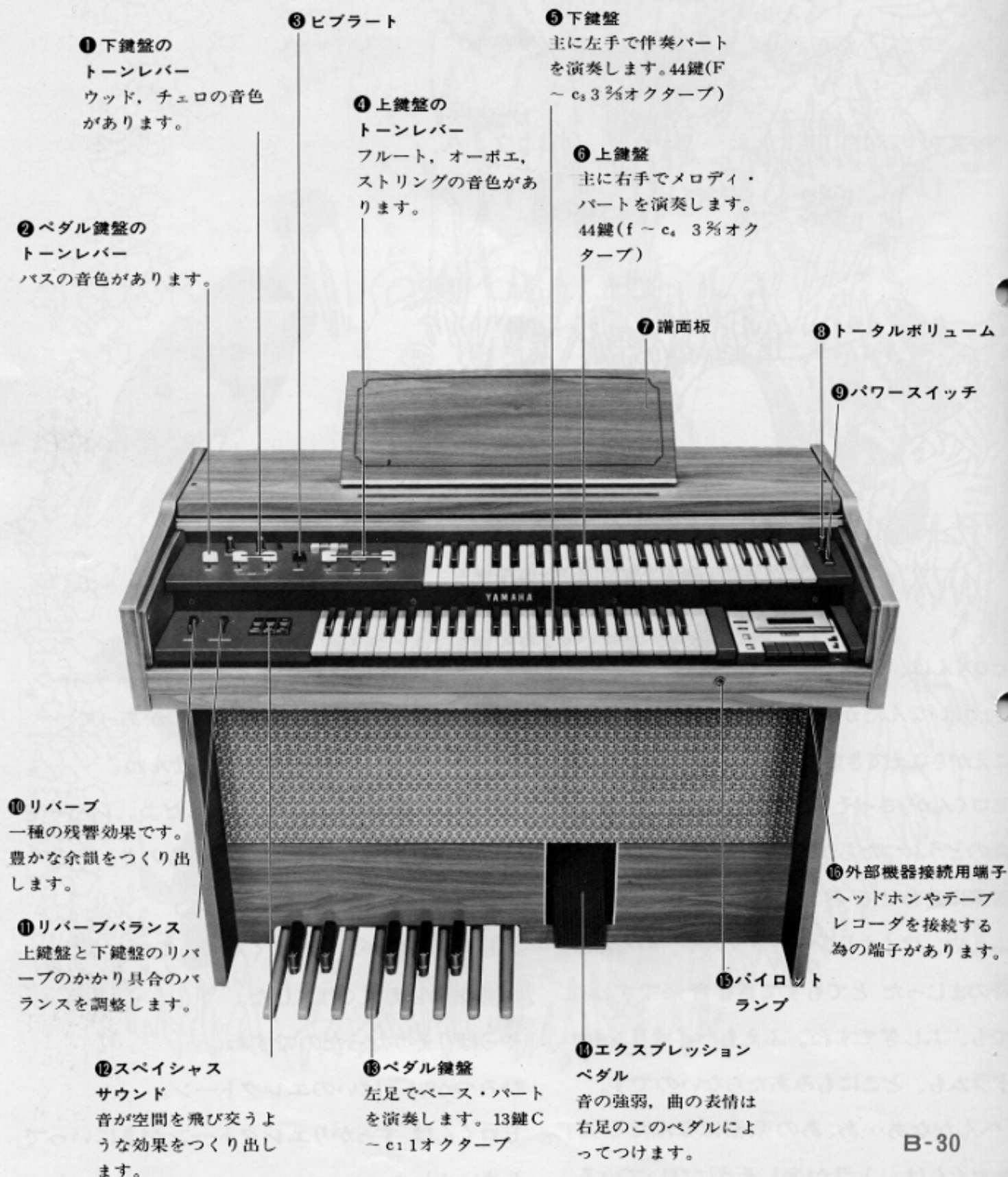
やっぱりそうだったのですね。

ひみつがいっぱいのエレクトーン。

ヒロくんは すっかりエレクトーンがきにいつて
しまいました。

各部の名称

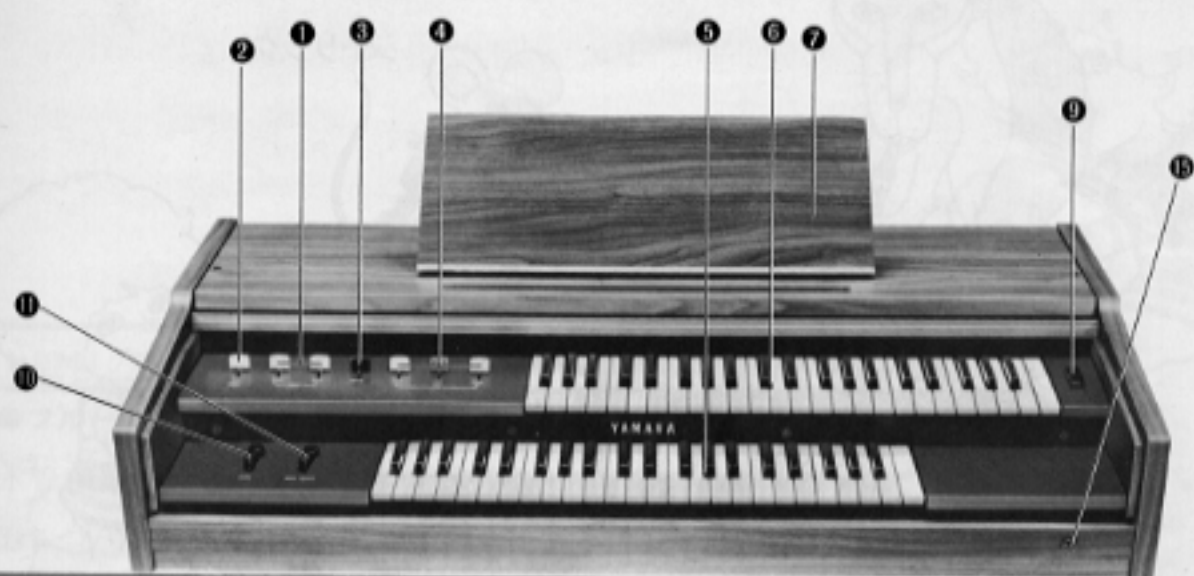
(B-30にカセットEC-500を組み込んだ写真です)



B-30



B-11

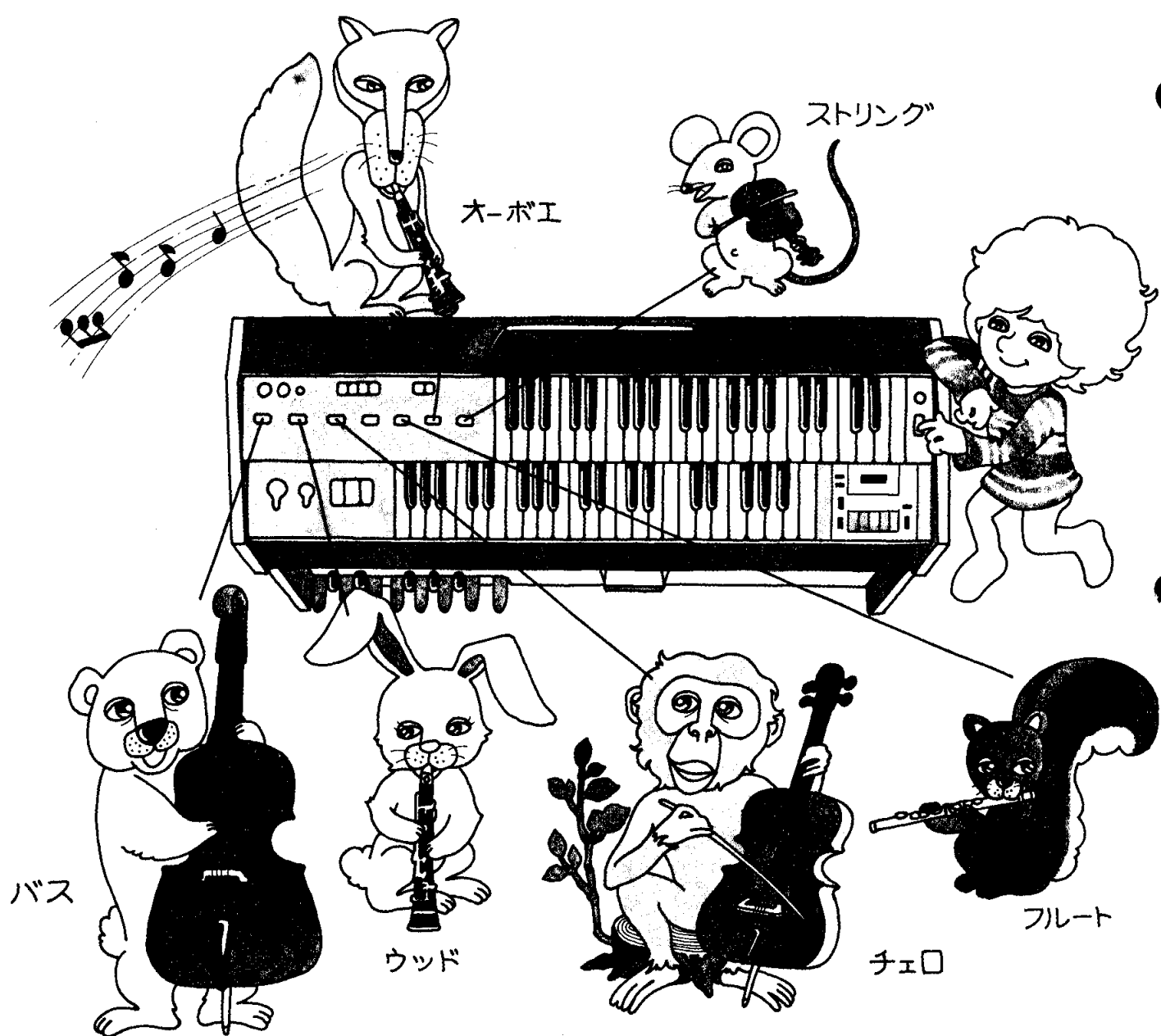


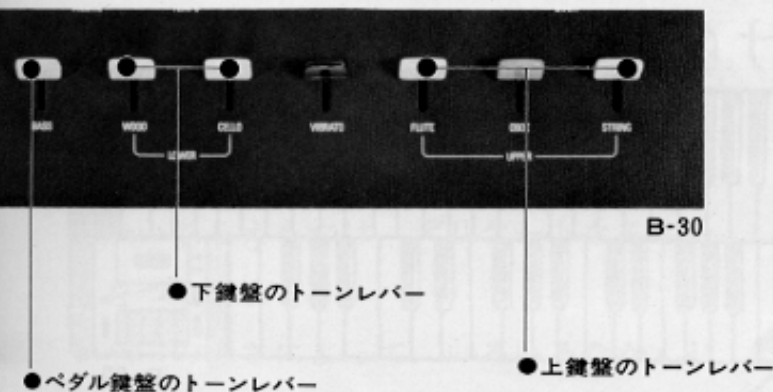
B-4

トーンレバー

(イラストはB-30にカセットEC-500を組み込んだ状態です)

だい 1台でいろいろな楽器に早がわり





B-30



上鍵盤のトーンレバー

●フルート FLUTE

木管楽器のフルートのような音です。すんだ、おちついた音がでます。

●オーボエ OBOE

木管楽器のオーボエのような音がでます。

●ストリング STRING

バイオリンのような弦楽器の音が、さらに豊かな音です。

下鍵盤のトーンレバー

●ウッド WOOD

木管楽器系の音で、フルートと同じような純粋な音ですが、少しあかるい感じになります。

●チェロ CELLO

やわらかく自然な、チェロのような音です。

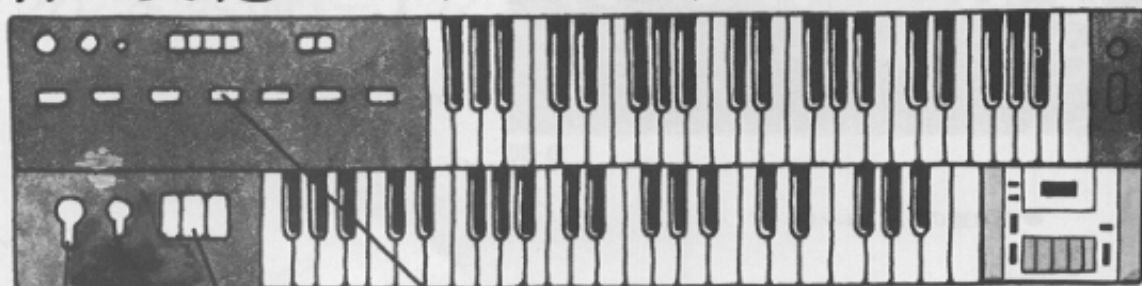
ペダル鍵盤のトーンレバー

●バス BASS

エレクトーンの一つ低い音です。

エフェクトレバー・他

おと へん か
音に変化がつけられます



B-30



スパイシャスサウンド



ビブラート VIBRATO

草笛のように、音をふるわす効果があります。すべての音に、さざなみのようにやわらかいふるえをつけ、デリケートなふんいきをつくります。

レバーの深さによって、いろいろなかんじがだせます。

リバーブ REVERB

山びこのような、残響効果がだせます。まるで大ホールで演奏しているような気分になります。このレバーは右にまわすにつれて残響が長くなります。

(B-4, B-30のみ)

リバーブバランス REVERB BALANCE

上鍵盤と下鍵盤のリバーブのかかりぐあいのバランスをとります。

右にまわすと上鍵盤のリバーブが大きくなり、左にまわすと下鍵盤の方が大きくなります。

(B-4, B-30のみ)

スペイシャスサウンド SPACIOUS SOUND

音が空間を飛びかうような感じが得られます。これは、上鍵盤と下鍵盤に別々にかけ

ることができるので、上鍵盤と下鍵盤の音にまろやかなひろがりがつきます。

スペイシャスサウンドには、早いくりかえしとゆっくりしたくりかえしがあり、表現に応じて使い分けられます。

(B-30のみ)

トータルボリューム

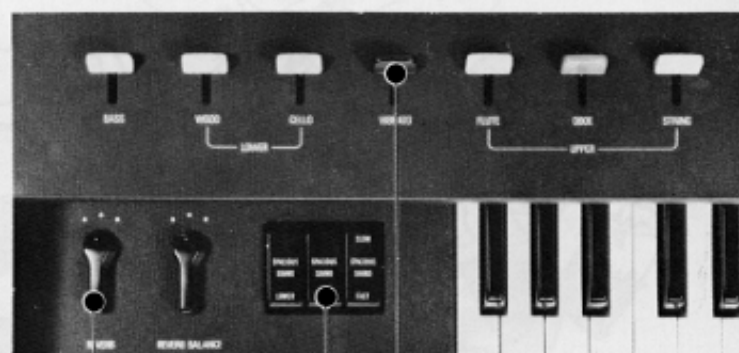
夜など、人の迷惑にならないように音量調節ができます。

また、曲の中で強弱などの効果を出す時にエクスプレッションペダルと併用してコントロールできます。

(B-11, B-30のみ)

パワースイッチ

上鍵盤の右側にあるスイッチで、ネオンランプがつくようになっています。



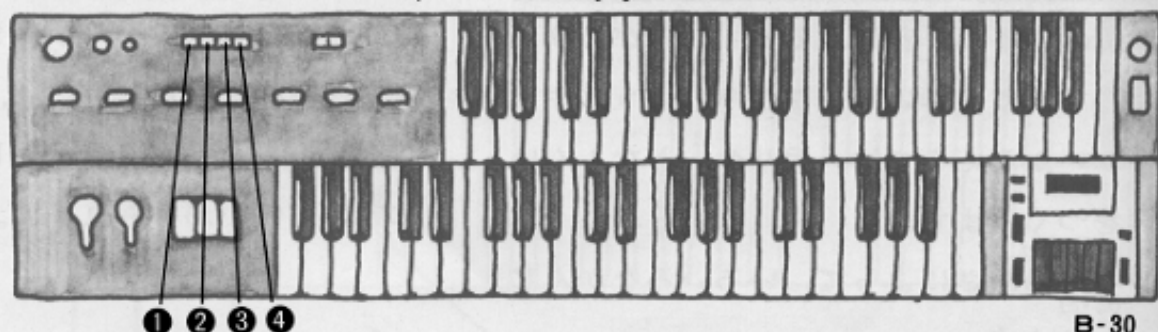
●リバーブ

●ビブラート

●スペイシャスサウンド

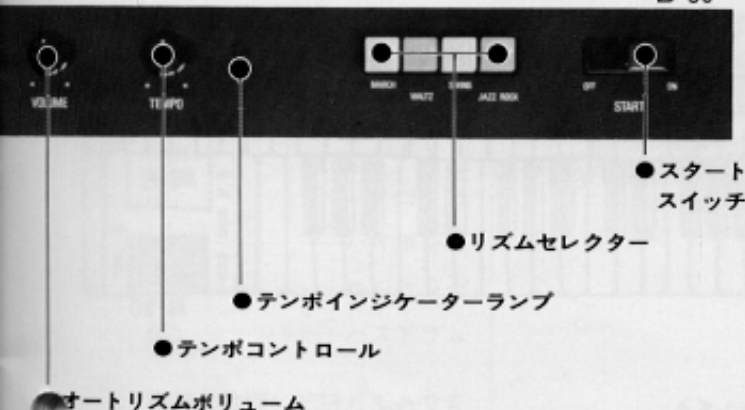
オートリズム B-30のみ

ボタン1つでリズム伴奏がつきます



B-30





オートリズムの使いかた

●リズムセレクター

4つのリズムがあります。おすきなリズムのボタンを押してください。2つ以上のリズムを一緒にすることもできます。ボタンを必要なく（3コまで）だけ押し、指を同時にはなしてください。

リズムのチェンジは、次のリズムのボタンを押すことで前のリズムは自動的にキャンセルされます。

各リズム間のテンポは一致していますから、曲の途中から違ったリズムで演奏することも、より曲の表現を多彩にします。

●スタートスイッチ START

スイッチをONにすると、リズムが第1拍目からスタートします。スイッチをOFFにすれば、リズムは止まります。

曲に入る前に、あらかじめリズムを2小節か4小節鳴らしてから曲をスタートすると

リズムに乗りやすくなります。

●テンポコントロール TEMPO

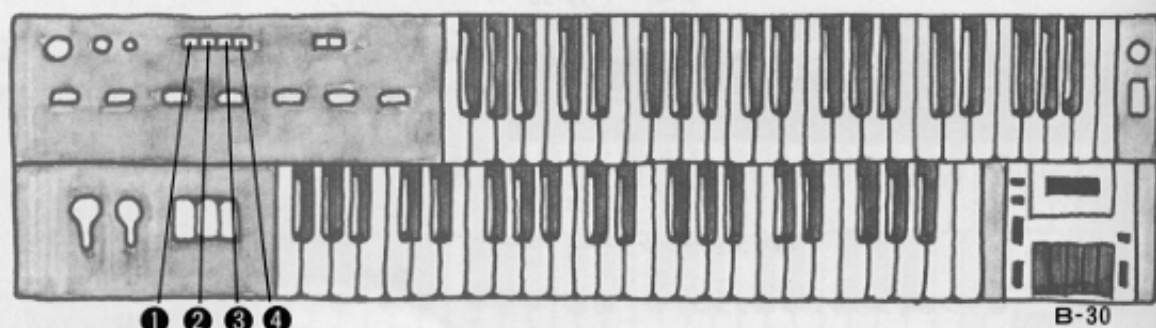
オートリズムのテンポ（速さ）を自由にコントロールすることができます。

●オートリズムボリューム VOLUME

オートリズムと、他の鍵盤の音量のバランスをとります。適度の音量を工夫してみてください。一度オートリズムボリュームでセットされた音量は、エクスプレッションペダルによってマニュアル鍵盤と一緒に変化します。



オートリズム



オートリズムの演奏はこうして

① マーチ MARCH 2拍子のリズムです。マーチ・ポルカにはもちろん、4拍子の曲でも、「聖者の行進」などのオルタネーティング・ベースを使う場合には最適です。2拍目のスネアドラムの音が気になるようでしたら、バランスつまみを右にまわすと軽快な感じになります。

② ワルツ WALTZ 3/4拍子です。左手の伴奏と同じパターンになりますから、リズムが伴奏とずれないように注意しましょう。テンポを速く、軽い感じでひく時は、バランスを右に回して好みのバランスを作ってください。

③ スイング SWING 4/4拍子系統の曲には、テンポの速さを問わず使うことができます。これにマーチを混ぜると、バスドラムが四分音符で1拍ずつ鳴りますから、曲の途中から使うとよりあがります。

④ ジャズロック JAZZROCK ジャズロックの基本パターンです。バスドラムの音が気

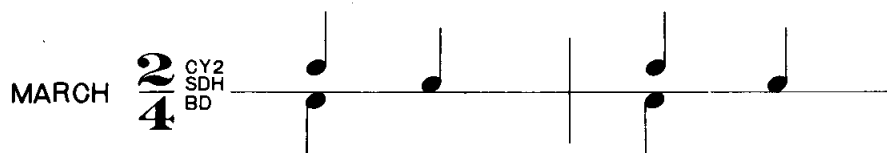
になる時は、バランス調整をしてください。スイングやマーチを混ぜると、ジャズロックのバリエーションとして効果的に利用できます。また、ワルツを混ぜるとアメリカンに似たリズムができます。ただし、この場合はテンポが少しはやくなりますからご注意ください。



CY2 ——— シンバル
 CY1 ——— シンバル
 SDH) ——— スネア
 SDN) ——— ドラム
 HC ——— ハイコンガ
 HB ——— ハイボンゴ
 LC ——— ローコンガ
 BD ——— バスドラム

●同じ位置に記譜してありますので、各々のリズムパターンを知りたい時には左の打楽器略号を横に追ってください。

●記譜の都合上、BD（バスドラム）のみ休止符を最少限度使用しました。



仕様と音域表

●B-30

- 鍵盤 上鍵盤：44鍵 3 $\frac{3}{4}$ オクターブ(f-c₄)
下鍵盤：44鍵 3 $\frac{3}{4}$ オクターブ(F-c₃)
ペダル鍵盤：13鍵 1オクターブ(C-c)
- トーンレバー 上鍵盤：フルート、オーボエ、ストリング
下鍵盤：ウッド、チェロ
ペダル鍵盤：バス
- エフェクトレバー ビブラート(上・下・ペダル鍵盤)
- エフェクトコントロール リバース、リバーブバランス
- スペシャルサウンド
アップボイス、ローボイス、スロー/ファースト
- オートリズム
リズムセクター(4リズム)マーチ、ワルツ、スイング、ジャズ
ロック、リズムコントロール、リズムスタート、テンポコントロール、ボリュームコントロール
- その他
電源スイッチ、パイロットランプ、トータルボリューム、エクスプレッションペダル、AUXイン、AUXアウト、ACアウトレット、ヘッドホンジャック(モノラル)
- メインアンプ 出力15W (8 Ω)
- スピーカー 30cmコーン型1本
- 定格電圧：100V 定格消費電力：35W 定格周波数：50/60Hz
- 外装
本体
仕上げ：シアレルフタレット、アメリカンウォルナット
間口：110.8cm
奥行：55.7cm
高さ：89.75cm(踏面台を立てた時107.35cm)
重量：51kg

椅子

仕上げ：ダップ指定化粧 (ニッパウォルナット)

間口：60cm

奥行：32cm

高さ：55.5cm

重量：5kg

■カセット(別売)

トラック方式：2トラック、1チャンネル・モノラル

テープ速度：4.8cm/Sec

ワウフラッター：0.3以下(RMS)

周波数特性：50-10,000Hz

MIC-66dBm(0.5mV)

入力インピーダンス4.7K Ω

ピッチコントロール：±3%(再生時のみ)

トランジスター：19石

ダイオード：10石

消費電力：5W

電源：AC100V 50/60Hz

寸法：奥行231×幅165×高さ73(mm)

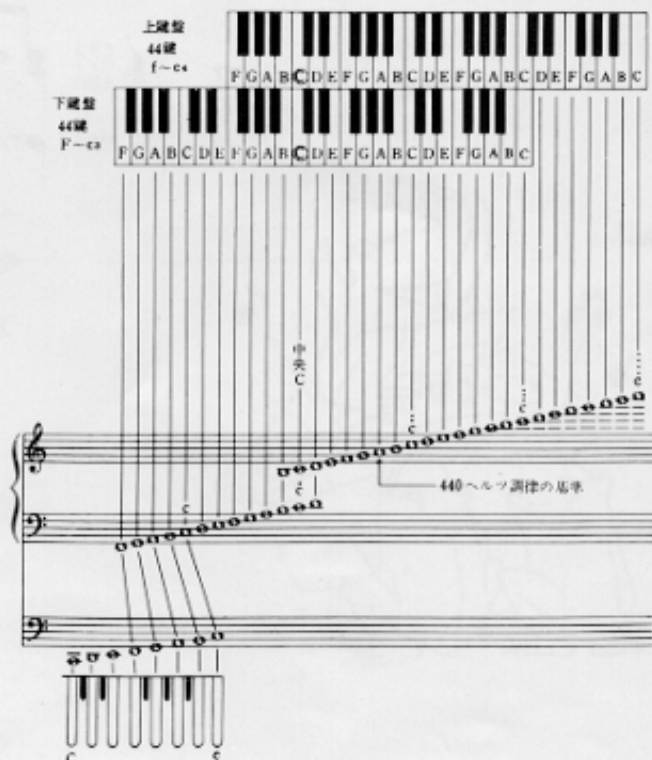
重量：1.7kg

付属品：マイク、ヘッド清掃用綿棒

※音域表はB-4と同じです。

●B-4

- 鍵盤 上鍵盤：44鍵 3 $\frac{3}{4}$ オクターブ(f-c₄)
下鍵盤：44鍵 3 $\frac{3}{4}$ オクターブ(F-c₃)
ペダル鍵盤：13鍵 1オクターブ(C-c)
- トーンレバー 上鍵盤：フルート、オーボエ、ストリング
下鍵盤：ウッド、チェロ
ペダル鍵盤：バス
- エフェクトレバー
ビブラート(全鍵盤)、リバーブ、リバーブバランス、エクスプレッションペダル
- その他
電源スイッチ、ヘッドホンジャック(モノラル)、エキスターナルインプット、パイロットランプ
- メインアンプ 出力15W (8 Ω)
- スピーカー 30cmコーン型1本
- 定格電圧：100V 定格消費電力：35W 定格周波数：50/60Hz
- 外装
仕上げ：シアレルフタレット、アメリカンウォルナット
間口：110.8cm
奥行：55.7cm
高さ：89.75cm(踏面台を立てた時107.35cm)
重量：55kg
(椅子は共通です)



仕様と音域表

●B-11

■鍵盤

- 上鍵盤：37鍵 3 オクターブ(f～f₃)
- 下鍵盤：37鍵 3 オクターブ(F～f₂)
- ペダル鍵盤：13鍵 1 オクターブ(C～c)

■トーンレバー

- 上鍵盤：フルート、オーボエ、ストリング
- 下鍵盤：ウッド、チェロ
- ペダル鍵盤：バス

■エフェクトレバー

- ビブラート (全鍵盤)

■その他

- 電源スイッチ、トータルボリューム、エクスプレッションペダル、ACアウトレット、エキスターナルインプットジャック、パイロットランプ、ヘッドホンジャック(モノラル)

■メインアンプ

- 出力15W (8Ω)

■スピーカー

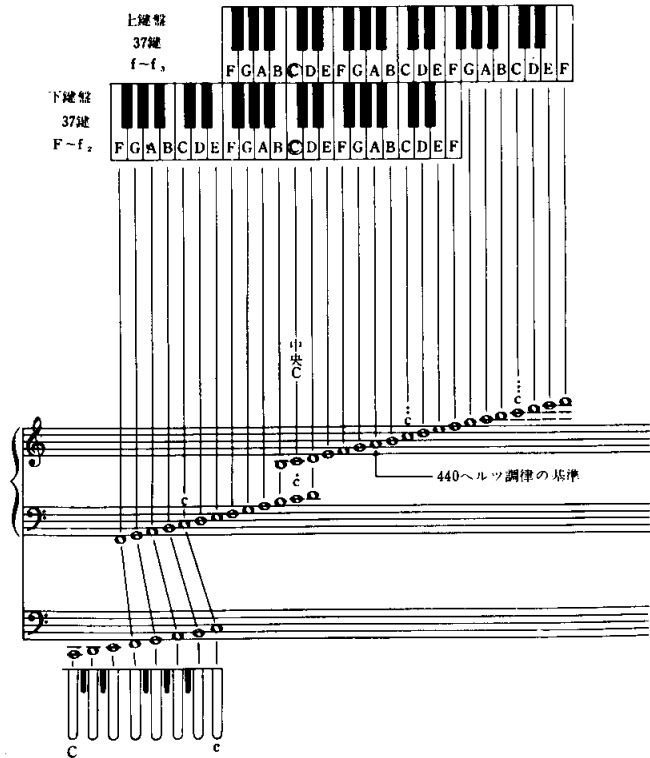
- 30cmコーン型 1本

■定格電圧：100V

- 定格消費電力：35W 定格周波数：50/60Hz

■外装

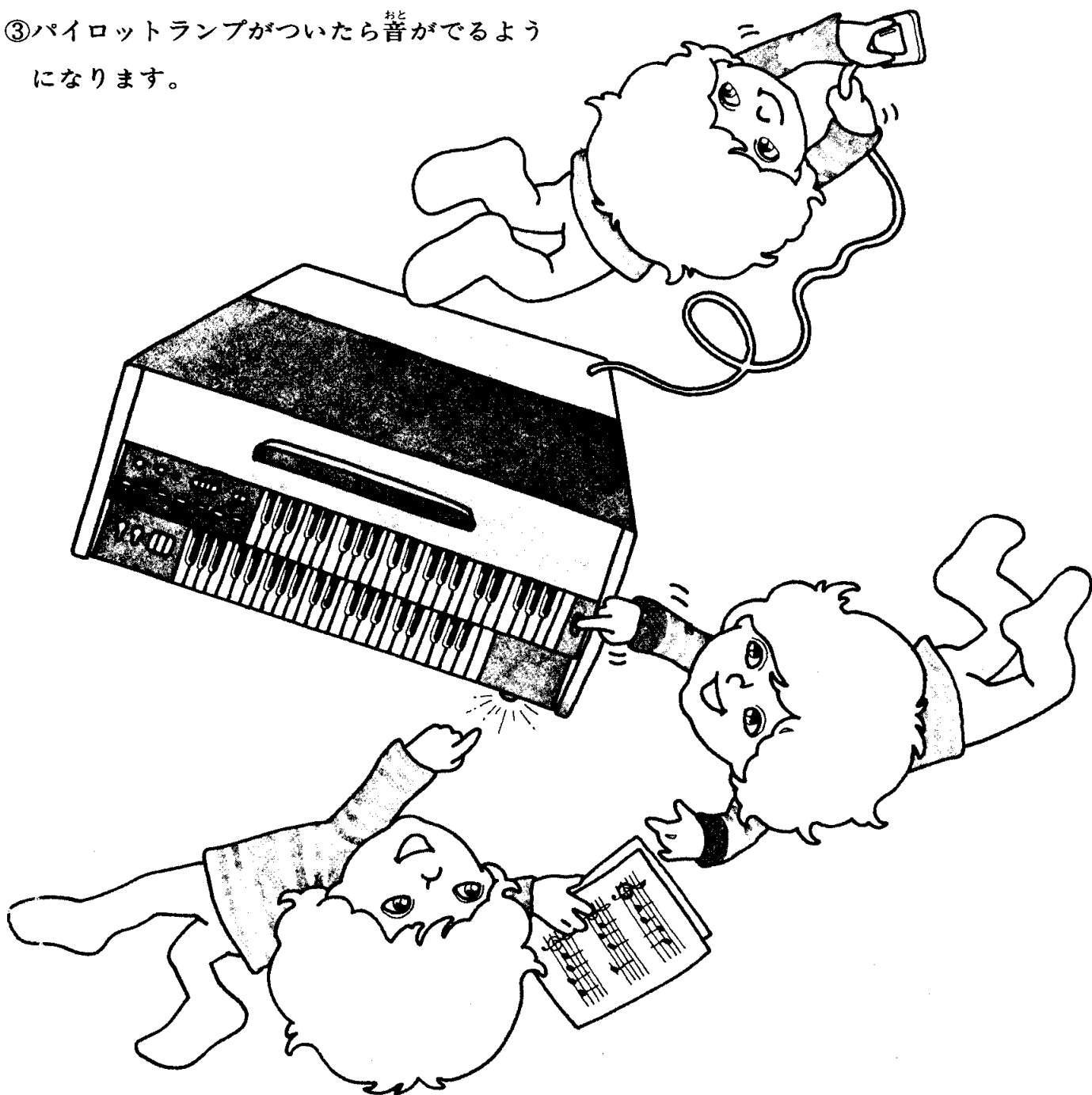
- 仕上げ：シュミレイテッドウォルナット板目
- 間 口：93cm
- 奥 行：53.5cm
- 高 さ：82.3cm(譜面台を立てた時101cm)
- 重 量：40kg
- (椅子は共通です)



さあ、ひいてみましょう ●演奏のしかた

まず電源^{でんげん}をいれましょう

- ①エレクトーンのうしろがわにある電源^{でんげん}コードをコンセントにさしこみます。
- ②上鍵盤^{うえけんぱん}の右がわにある電源^{でんげん}スイッチをおしてください。
- ③パイロットランプがついたら音^{おと}がでるようになります。



えんそう しせい
演奏の姿勢

どんな楽器をひくときも、基本の姿勢がたいせつです。よくマスターしてください。

- ①エレクトーンのまん中^{なか}にすわりましょう。
イスの前半^{まえはん}分の位置^{いち}で楽^{らく}な姿勢^{しせい}をとります。
からだの重心^{じゅうしん}はすこし右^{みぎ}がわにより、左^{ひだり}あ
しが楽^{らく}にうごかせるようにしてください。

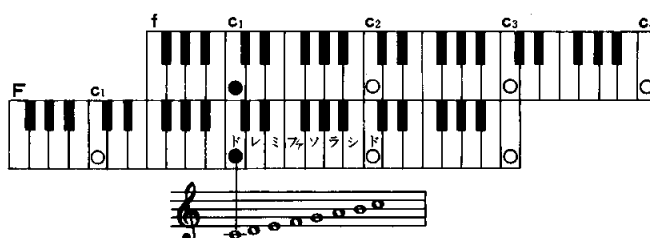
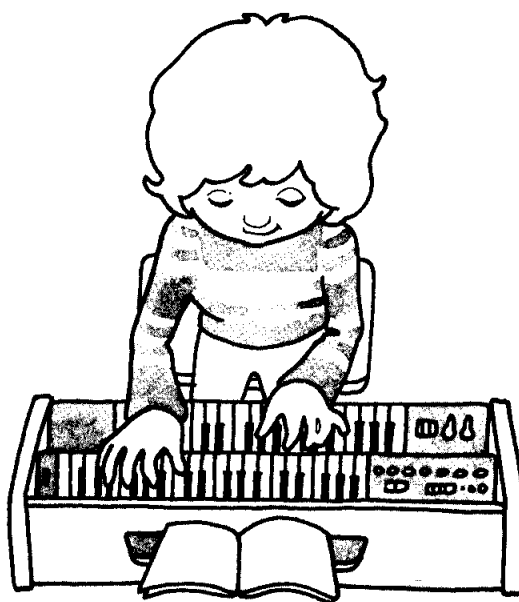
- ② ^{みぎ}右手…^{うえ}上^{けん}鍵盤（メロディパート）
^{ひだり}左手…^{した}下^{けん}鍵盤（伴奏^{ばんそう}パート）
^{ひだり}左足…^{あし}ペダル^{けん}鍵盤（ベース^{ばん}パート）
 それぞれがすべての^{けん}鍵盤にとどくようにた
 しかめてください。

- ③左足は力を入れずにひざ下が左右に楽にうごかせるようにします。足くびは力をぬき、つまさきが黒鍵の手前をかるくおすように演奏します。

- ④右足はエクスプレッションペダルにのせます。足くびの力をぬいて、足のうら全体をペダルにのせるようにしましょう。
- いっぱいにふみこんだり、上げたりする動作が楽にできなければなりません。

- ⑤正しい姿勢がとれたら、右手で鍵盤をおしながら、トーンレバーとエフェクトレバーをいれましょう。

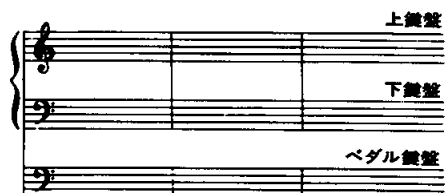
- ⑥つぎに、リバーブレバーをあわせます。



楽譜について

エレクトーンの楽譜は3段にかかれています。この場合、特に指定のないかぎり、上段が上鍵盤、2段目が下鍵盤、一番下がペダル鍵盤用になっていて、それぞれ、右手、左手、左足でひきます。

ふつう、上鍵盤はト音記号、下鍵盤とペダル鍵盤はヘ音記号でかきます。



練習曲の音符には、ピアノと同じように指の番号がついていますが、指のはこびかたはピアノの場合とおなじです。

エレクトーンの楽譜には、特に音色の変化を指定する記号がついているので、トーンレバーやエフェクトレバーを効果的に使しましょう。

マニュアルキー(手鍵盤)のひきかた

エレクトーンを美しくひきこなすには、正しい指づかいをすることがたいせつです。ふつうの手の形は、一度にぎった手を軽くひろげ、指を立てた状態にします。

この形は指を早く動かすためにも必要で、あらゆる鍵盤楽器に共通の模範的な形です。

エレクトーンは、ピアノとちがって指を離れた瞬間に音がきれてしまいます。ですから、レガートをひく時などは、次にひく音の上に指を用意しておきましょう。

指使いの基本

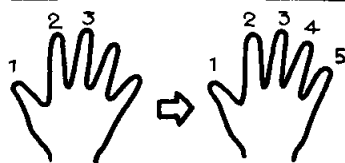
①原則として、2度はとなりの指で



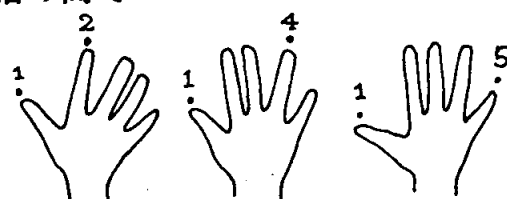
②5度以内は5指を有効に



③5度以上の順次進行は音階の指使いで



④指の拡大はなるべく1-2, 1-4, 1-5の指の間で



⑤黒鍵はなるべく長い指で(2,3,4指)



ペダル鍵盤のひきかた

①すわる位置はいつも同じにしましょう。
1オクターブ以上キーがある時に、からだの中心の音よりも4度下の音(すなわちfの位置にすわるとC)が左足の真下の音となります。

ふつうの人で、からだの中心をcかdのところへもっていくと、左足はGかAのところにくるはずです。

②ひざから下は、ひざを中心に時計の振り子のように楽に動かすのが上手なひき方です。

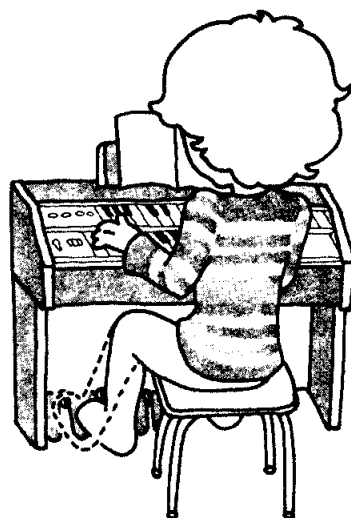
③演奏は足首でします。

ひざを上下すると足が疲れやすく、また速いテンポの曲の演奏がむずかしくなります。ふむ位置は、白鍵の真中より少し奥をふみ、足の指のつけ根が白鍵の真中になるようにします。

黒鍵は、つま先で黒鍵の手前を軽く押すようにしましょう。

④演奏中に足鍵盤を見ると姿勢がくずれ、力がはいつてしまいます。

⑤練習の時は、ペダル鍵盤だけのリズム練習、音階練習をしましょう。
上達がはやくになります。



トーンレバー、エフェクトレバーの使い方

- レバーを手前にひくと音がでます。
- トーンレバーは、3つの段階にわかれています。これで音の強さが調節できます。1,2,3の位置をクリックストップといい、1,2,3の順に手前に引くほど音は大きくなります。0の時は、音はでません。



やさしい練習曲からはじめましょう

ちょうちょ

Kinderlied ドイツ曲



C コード

G7 コード

U.M. : Oboe
L.M. : Wood
Ped. : Bass

Vib. : 1~2



ちゃ色の小びん

Little Brown Jug アメリカ曲



U.M. : Flute + String Vib. : 0~1
L.M. : Wood
Ped. : Bass